

平成 2 2 年度第 4 回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 平成 2 2 年 3 月 3 日 (木) 1 3 時 3 0 分 ~ 1 5 時
- 2 場 所 さぬき市役所 3 階 3 0 1 会議室
- 3 出席者 【委 員】 柿木委員 亀井委員 工藤委員 小山委員 白井委員 谷 委員
筒井委員 藤井委員 宮本委員
【事務局】 総務部政策課 十河課長 事務局
【傍 聴】 0 名
- 4 会議次第 1 開会
2 会長あいさつ
3 議題
(1)男女共同参画セミナーをふりかえって
(2)平成 2 3 年度男女共同参画推進活動事業等実施計画 (素案) について
(3)次回会議のスケジュールについて
4 その他
5 閉会
- 5 配布資料 【資料 1】 男女共同参画セミナーをふりかえって
【資料 2】 平成 2 3 年度男女共同参画推進活動事業等実施計画 (素案)
【参考資料】 平成 2 2 年度さぬき市男女共同参画推進協議会委員からの提言
- 6 会議内容

発言者	意見概要
事務局	(13 : 30) 定刻がきたので会議を始めたい。今はいないが、傍聴者が来た場合は随時入っていただく。忌憚のない意見をよろしくお願ひしたい。
	< 会長挨拶 >
会長	では、議題に入る。議題 1 「男女共同参画セミナーをふりかえって」について、事務局、報告をお願ひしたい。
事務局	資料 1 を使って男女共同参画セミナーの実施内容とアンケート結果を報告
会長	意見・質問があればお願ひする。
委員	今までと違う意見が出ているので、会場の雰囲気がかよったのだろう。いいと思う。
委員	グループワークで班長をした。人の意見を聞き出すことの難しさをあらためて知った。グループ員に恵まれたが、もっと本音を聞きだすには時間が少し短かった。川柳を作りながらだったからかもしれないが、もっといろいろな話がしたいグループだった。

委員	<p>私も班長をした。意見の聞きやすい班だった。男性が1人いて、なんで参加したのか、というところから入った。その方は、頭づくりのために自分も何かしてみようと思ったので広報紙を見ただけで来た、とのことだった。</p> <p>川柳を作りながら、軽いノリで家庭や職場の話をしたので、川柳づくりと男女共同参画の話の線引きが少し難しかった。今、5・7・5の言葉遊びが若い人の中でも流行っているの、これからも男女共同参画を推進する方法として続けられる取り組みだと思った。</p>
委員	<p>女性はものすごくパワーがあると思う。女性がパワーを出せる雰囲気を作ることが大切で、その手立てとして川柳を使った。(各自で作った)川柳をもとに話し出したのだが、いろいろなことを(女性は)知っていた。女脳は老化しにくいという説もある。年齢にもよるが、女性はできるだけ控えめに、男性は前にという意識があるので、まずは家庭の中でそれを変えていくことが男女共同参画には大事だ。川柳の会でも、女性ははじめは何も言わなかったが、言い出すと、経験をもとに具体的であるため、聞いている人に共感を得る話をする。川柳をとおして、いわゆる男女共同参画が自然に出てきたと思う。</p>
委員	<p>まずは川柳をつくらなきゃ、という意識があり、初めて川柳をつくるという方が班員7人中3人いた。日常のことばあそびをしてほしい、と進めたが、(男女共同参画について)ディスカッションをするには少し時間が短かった。作った川柳に対してみんなで話し合える時間があればよかったかな、と思う。ただ、川柳を作ることによって助け合え、話し合えたので、わきあいあいとした会になった。</p> <p>男性の班員は、「妻が元気になってくれれば家庭の中が明るくなるので、妻はどんどん出ていってくれたらいい。僕が留守番をするから、という姿勢でいる」と話していた。がまんするのが当たり前だと思っていたので、夫が変わらなくてもいいかなと思っていた班員が、他の班員の話聞きながら、「それなら、ウチの夫もあれこれしてくれたいのに。私が当たり前と思っていたことが、当たり前でないこともあるんやな」と話していた。幅広い世代を対象に、「さぬき市川柳大会」も面白いかなと思った。(川柳という)日本の文化に触れながら、家庭でも話し合えると思う。</p>
委員	<p>堅苦しい男女共同参画の講義も勉強にはなるが、川柳のようなやわらかいものを考えながら、自分の家庭や職場、地域での生活の情景を思い出して、男女共同参画というものがスルッと出てきたという感じかと思う。すごく良かったし、いい雰囲気だと思う。しかし、男性の参加が少ないのが残念だ。これからを担う若い世代に、もう少し(男女共同参画が)浸透していけばいいと思う。何かいい手立てがあればいいと思う。若い人には、育メンというように自然に浸透している面と、全く浸透していない、例えば、自分の感情で女性に暴力を振るっても反省できないような人も中にはいるという面も考えながら、(学習の)内容を充実させたい。生まれたときから「男だからこうしなさい、女だからこうしなさいいけない」という言い方をやめて、親が個性を活かすようになって、男女共同参画を頑張っ勉強しなくてもいい世の中が理想だと思っている。(男女共同参画は、)大人が子どもたちに教えていくものだ。男の子が女の子を叩いちゃいけませんと育ててきているが、なんで男の子が女の子を叩いちゃいけないのかということまでは浸透していない。したがって、年配の方が学んでいる姿はすごくいいことだとは思いますが、もう少し若い人に浸透させたい。学校の勉強だけではだめだろう。</p>
委員	<p>川柳に興味のある人にはとてもよかったですらう。趣味は人いろいろだから、工夫</p>

	<p>する必要があるだろう。若い人たちには音楽関係がいいかも知れない。</p>
委員	<p>不愉快だったという人もいたようだが、なぜそのようになったのかを考えていた。(男女共同参画に関する)セミナーは、班別研修をする場合が多いがなぜなのか疑問がある。(不愉快だったと書いた人は)川柳についていけなかったのかも知れないが、男女共同参画を認めながらも否定するところがあるのかも知れない。今回の講座が受け入れられなかったのはなぜなのか疑問だが、このような声を聞いたのは良かったと思う。</p>
会長	<p>今回のセミナーを不愉快だったという方もいたようだが、よくぞ言ってくれたと思っている。イベント的な啓発活動に対して、「これでいいの?もっと力のあるものも考えたらいいのでは」という応援メッセージをくれたと理解している。</p> <p>川柳の市民コンテストを、という委員の意見は「あり」だと思うが、今回は、30人規模で扉を開けた、というかんじだろう。他の団体で、大々的に川柳を募集して賞をつける取り組みはあるが、今回のような取り組みは珍しい。しかし、(現状に甘んじず)もっと前へ進めていければいい。</p> <p>講師の講座も分かりやすくよかったし、作品を貼って講評したのもよかった。これをきっかけに、家で5・7・5と考えてもらえるようになればいい。私としては、今後に向けての見通しがたつ、いい企画であったと思う。</p> <p>次の議題に入る。「平成23年度男女共同参画推進活動事業等実施計画(素案)について事務局、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料2・参考資料を使って、平成23年度の事業計画の素案を説明</p>
会長	<p>意見をお願いします。</p>
委員	<p>玉浦大学の方に、男女共同参画を講座に入れたらどうですか?と尝试してみた。</p>
会長	<p>丸亀市は、コミュニティ講座には2年に1回は男女共同参画を入れるという取り組みをしている。三木町でも、寒川のいきいき長寿大学でも取り入れている。</p>
委員	<p>男性料理教室だが、重要なのは、なぜ家庭で(男性が料理を)するのか、ということだ。ある雑誌に、夕食では子どもの話が多くなるから、茶碗洗いを夫婦で行えば話ができるのでは、という提案があった。自分も、料理と一緒に作りながら話している。料理をきっかけに夫婦で話し合いをすれば、男女共同参画につながっていくのではないかと思う。これが、男性料理教室の最たる部分だと思っている。</p>
委員	<p>家事は、自分流があり、夫婦で対立する場合がある。(家事のやり方について)注意される内容には一理あるので、受け入れる度量があればいいのだが、なんとなく抵抗がある。自由に話し合える雰囲気になるまでに時間と経験が必要だ。</p>
委員	<p>(家事を)してやってる、と思うからではないのか?</p>
委員	<p>そうではないが、夫婦互いに辛抱がいるのだ。</p>
会長	<p>平成23年度は、こういうものがあるのではないかと意見はないか?</p>
委員	<p>素案に書かれているものをすべてやるということではないのだな。</p>

会長	はい。 「男女共同参画かるた」は、さまざまな団体が作っている。
事務局	「男女共同参画かるた」は、企画事業でも対応可能だと思う。
会長	「男女共同参画かるた」は、2年くらいかかると思う。
事務局	委員の中から「いろはかるた」を作ったらよい、という意見があった。その意見も踏まえて議論できるのではないか。
委員	教育委員会で家庭生活に関する子どものかるたを作っているはずだ。幼・小・中には10部ずつ送っていると思うので、また見てほしい。
委員	この素案の内容は、平成22年度はだいたい行っているのか？
会長	はい。
委員	広報さぬきに2ヶ月に1回掲載は厳しいかも知れない。
会長	委員が持ち回りで記事を書いて政策課に届ければ可能と思う。
事務局	紙面をどれだけさけるかが大きな問題で、広報紙担当と協議が必要だ。(委員からの出稿であっても)文章の校正もこちらで行うことになる。臨機応変に対応しながら、2ヶ月に1回くらい出せればよいと考えている。あくまで、素案としての希望である。
委員	男女共同参画をきっかけに、社会をあらゆる角度から見る手立てとして、新聞や本を読むことが必要だ。いわゆる、男女共同参画を切り口にした記事はたくさんある。自分の考えが膨らむので、できれば、記事の切り抜きをすればいいと思う。 さぬき市で男女共同参画を進めて行くのであれば「男女共同参画推進室」が必要だ。1人や2人でもいいので、推進室ができれば、市民にも意識が広がると思う。行政の中からは言えないので、協議会で市長に申し出ればいいと思う。
会長	香川大学にも男女共同参画センターができた。推進活動をするには、大元が必要だ。女性の議員が増えないと男女共同参画が進まない、では、いつまでも進まない可能性がある。男性の議員に男女共同参画の視点を持つように働きかけることも必要だろう。どちらが早いかは分からないが。
委員	女性の政治参画のセミナーは非常に面白い。実践している女性議員に話してもらえばいいだろう。DV防止啓発のテーマも重要だ。
委員	職員研修を兼ねる、というのは面白いと思う。職員と市民が同席の会を1度はやってみたらいいと思う。さぬき市全体が、男女共同参画をどう考えているのかも分かると思う。
委員	ジェンダーを意識しすぎてメンタル不全に陥る男性が増えている、というのはどうということか。

事務局	男性がメンタル不全に陥り、休職や自殺につながるケースがある。その理由の1つに、女性は、外に向いて愚痴を言って発散できるが、男性の中には「男だから愚痴は言えない」と思いこんでいるケースがある。したがって、「女性も協力する。男性だからといって頑張り過ぎなくていいんだ」という気づきを、男女共同参画の立場から発信していきたい。
委員	目新しいことで勉強になった。いいことだ。
委員	個人的には、介護が気になる。さぬき市でも介護の問題は増えていくだろう。介護する側、される側の互いの気持ちの持ちようが難しい時代だし、家庭で違うとは思いますが、お互いに助け合える考え方を勉強しあうことも必要だと思う。
委員	介護に男性が関わると本当に切ない。先輩は、妻の介護をしているが、「俺の方が先に逝ったほうがいい」と言う。夫婦として介護しているが、何かにつけて異性として接しないといけないので抵抗があるようだ。例えば、衣類の買い物だが、夫が妻の下着を買うのも抵抗があるし、逆に、妻が夫を介護する場合、夜中に(夫に)歩かれると非常に辛いと話していた。「家庭で介護することは美しく聞こえるが、現実はずかしい。自分になってみないと分からない。」と語っていた。
会長	「次回会議のスケジュール」について、事務局説明をお願いする。
事務局	次回開催予定時期(5月上旬頃)などを説明
会長	その他の連絡はあるか?
事務局	なし
会長	以上で第4回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会する。(15:00)